

道徳教育と宗教教育に関する質問紙調査と 神経心理学による4つの分類法による検討

宇田川 千帆

本研究の目的は、中学校期における道徳性の発達の傾向を測定する質問紙調査の結果から、公立学校における道徳教育と、道徳科の代替として宗教教育を行うことのできる私立学校を比較することにある。中学校学習指導要領では、道徳教育の内容について、「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を1領域として定めているが、神経心理学は、青年期の脳の発達において、この領域にある崇高なもの、高次の社会的感情をもたらす教育の重要性を示している。このことから、「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」についての質問紙調査の結果を、計量テキスト分析、および、神経心理学の分類を用いて検討した。

キーワード

道徳教育、宗教教育、中学校期、神経心理学、計量テキスト分析

(SUMMARY)

The purpose of this study is to compare moral education in public schools with religious education in private schools. Only private schools can provide religious education as an alternative to moral science from the results of a questionnaire survey that measures the developmental tendencies of morality in junior high schools. The public junior high school curriculum establishes that the content of moral education is "mainly related to the relationship with life, nature, and the sublime." Although it is defined as an area of study, neuropsychology has shown the importance of education that brings about the sublime and higher social emotions in the development of the brain during adolescence. Therefore, the results of the questionnaire the point of "mainly related to the relationship with life, nature, and the sublime" were examined using quantitative text analysis and classification of neuropsychology.

Keywords

Moral Education, Religious Education, Junior High School, Neuropsychology, Quantitative Text Analysis

1. 問題と目的

1-1 公立学校における道徳教育と私立学校における宗教教育

日本における宗教教育は、宗教の知識教育、宗教情操教育、宗派教育と分けられ、狭義の宗教教育である宗派教育は、公立学校では行うことができない。一方で、私立学校では宗教教育の自由が基本的に認められている [井上 2005 : 191]。

私立学校においては、1947（昭和 22）年の学校教育法施行規則（抄）第 4 第 2 節第 50 条で、宗教教育をもって特別の教科である道徳に代えることができる [文部科学省 2017 : 9, 12]、との規定が準用され、宗教教育をもって道徳教育の代わりとしている学校が存在する。

しかし、これまで公立学校における道徳教育と、私立学校における宗教教育が、実際にどのような教育的影響をもたらしているかということについての実証的な研究はほとんどされてこなかった¹。そのため、本研究では、2015（平成 27）年 3 月、文部科学省が設置した「特別の教科 道徳」の検定教科書を用いる公立中学校の道徳教育と、特別の教科である道徳に代えて宗教教育を行う私立中学校を比較するために質問紙調査を行った。

1-2 道徳教育と神経心理学

青年期は、超越的な思考および、感情という新たな能力が身につく時期であり、さらに、この能力によって、社会的状況を理解し、社会的状況にもたらす価値観、およびに、より広い意味の行動や認識へと青年を動かす発達が可能な時期である [Immordino-Yang, Riveros 2021 : 13]。

このような青年期の脳の発達はまた、この時期の生徒の問題となる、メンタルヘルス、およびに、教育効果低下の防止、となり、また若者のその後の人生の、アイデンティティの一貫性、人生に目的を持つこと、およびに、人生の満足度に関わる。このことが意味することは、脳の神経接続を作り直す機会を提供することであり、その接続とは、低次の基本的感情から、高次の社会的感情への成熟である [Immordino-Yang, Riveros 2021 : 13]。

教育分野における社会的感情が神経心理学において注目されるようになった背景には、アントニオ・ダマシオ『進化の意外な順序—感情、意識、創造性と文化の起源』（2018 年）によって、人間の意識における「感情(feeling)」の重要性の再考を促す議論がなされたことによる。

ダマシオ [2018] は、脳神経系から体性神経系（感覚神経、運動神経などの筋骨格や内臓に関わる神経系）への方向性からだけでは見えてこなかった、身体から脳、すなわち、体性神経系から脳神経系への方向性という、双方向性の循環を示すために、進化の意外な順序を

明らかにした。

ダマシオと共同研究した Immordino-Yang et al., [2009] [2021] は、教育分野における、感情の重要性を神経心理学の視点から研究しており、特に、青年期における、高次の社会的感情、主に、畏敬の念、至福、賞賛、他人の痛みや苦しみへの共感といった、超越的な思考や感情の経験と、その周辺に関する学習が、青年期に特有で、かつ可能な脳の発達を促し、その後の人生にも影響を与えているとしている。

日本において、このような教育がなされている分野として考えられるのは、特別の教科 道徳の内容である4領域の中の1つである、「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」ではないかと考えた²。

1-3 質問紙調査の目的

本研究では、道徳科における「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」という、高次の社会的感情の学習に最も関わるとされる領域が、実際の教育現場において、どのように教えられ、生徒にどのような影響を与えているのかを調査したいと考えた。

そのため、宗派教育が可能であり、宗教にかかわる内容を用いて、道徳科の代替として宗教教育をすることのできる私立中学校の生徒と、公立中学校の道徳科の授業を受ける生徒に質問紙調査を実施した。

質問項目を検討するにあたり、玉田ら[2004]の道徳的規範尺度は、道徳教育の内容である4領域の中の、「主として自分自身に関すること」、「主として人との関わりに関すること」、「主として集団や社会との関わりに関すること」に関する3領域についてのものであった。そのため、「主として自然や生命、崇高なものとの関わりに関すること」についても測定できる尺度を開発した大門 [2018] の質問項目を参照した³。

2. 調査方法

2-1 調査対象者と調査時期

首都圏内におけるキリスト教系（カトリック）私立中学校 194 名（女子 194 名、1 年生 62 名、2 年生 57 名、3 年生 75 名）、公立中学校 372 名（男子 191 名、女子 181 名、1 年生 131 名、2 年生 117 名、3 年生 124 名）を対象とした。調査時期は、2021（令和 3）年度 3 月から 4 月にかけて実施した。そして、質問項目について、「とてもそう思う」、「だいたいそう思う」、「どちらかと言えばそう思う」、「どちらかと言えばそう思わない」、「あまりそう思わない」、「まったく思わない」、「わからない」の 7 件法で回答を求めた⁴。欠席している生徒を除き、

すべての生徒から質問紙を回収した。

さらに、2021（令和3）年度9月から10月にかけて、同じ2校で再調査を実施した。自由記述(1)「自然や生命、崇高なものと聞いて何をイメージしましたか」、(2)「道徳や宗教の授業の中で印象に残っていることは何ですか」という2項目について、キリスト教系（カトリック）私立中学校182名（1年生62名、2年生56名、3年生65名）、公立中学校359名（1年生124名、2年生114名、3年生121名）に質問紙調査を実施し、出席している生徒すべてから質問紙を回収した。

2-2 分析方法

大門・宇田川〔2022〕では、回収された54項目の質問紙⁵から、探索的因子分析を行い、「自然や生命、崇高なものとの関わりに関する肯定的な意識」、「自分自身に関する肯定的な意識」、「人との関わりに関する否定的な意識」、「自然や生命、崇高なものとの関わりに関する否定的な意識」、「集団や社会との関わりに関する肯定的な意識」、という5つの因子を抽出し、道徳教育を受ける公立中学校の生徒の方が「自然や生命、崇高なものとの関わりに関する否定的な意識」の得点では、有意に高い値であるという結果を出した。

本研究では、得点に差異が出た原因をさらに詳しく探るために、「主として自然や生命、崇高なものとの関わりに関すること」についての質問項目である、2、3、6、13、18、22、39、47、48の9項目にたいして、学校別、男女別、学年別、のクロス集計を求めた。

2-3 KH コーダーによる分析と神経心理学的分類

再調査の自由記述についての分析では、KH Coder という解析ソフトを用いた。テキストデータを統計的に分析するため、コンピュータによる自然言語処理や統計解析の技術を活用して分析を行う方法が計量テキスト分析であり〔樋口ら 2022 : 14〕、今回は、KH Coder というフリーソフトウェアを用いた。

自由記述(1)では、KH Coder によって抽出された語の一覧を確認し、より詳しく見たいコンセプトを主体的に取り出すためにコーディングテキストを用い、「自然や生命、崇高なもの」にたいする生徒のイメージを分類する。

自由記述(2)では、生徒の回答が、授業の単元名⁶ではなく、生徒が覚えている、もしくは印象に残っている語句であったため、抽出された語の一覧を確認し、コーディングテキストによって、授業の単元別に分類し直した。コーディングテキストのルールによって分類された授業内容を、学年別・男女別でクロス集計を求めた。

さらに、その集計結果により分類された授業内容を、Immordino-Yang et al., [2009]の神経心理学的な4つの分類、A 身体的な賞賛 (admiration)、B 心理的・社会的な賞賛、A' 身体的な同情(compassion)、B' 心理的・社会的な同情、に分けた。

この分類を使用する目的は、社会的感情の種類と、その感情が起こる際の脳の活性部位、さらに、それらの感情を獲得する時期やプロセスが明らかたためである。そのため、この分類法を用いることにより、生徒が、どの時期に、どのような感情を経験する必要があるか、また、学習頻度や、感情とともに学習する知識について知るための区分になると考えたためである。

Immordino-Yang et al., [2009] による4つの分類として、賞賛、および同情、さらにそれらを、身体的、および心理的・社会的とする。分類の詳細については以下の通りである。

【賞賛】: 痛みに関連しない。スキルや、美德ある行為にたいする賞賛。他人の苦しみを軽減することを目的とした、高潔な行為をみることにより誘発される感情。

【同情】: 痛みに関連する。身体的な痛みに関連する神経メカニズムは、心理的・社会的な痛みへの理解の土台となる。さまざまな痛みにたいする同情。他の人の喪失感、社会的な痛み、もしくは、肉体的な損傷をみることにより誘発される感情。

【身体的】: 外受容感覚⁷の領域の活性化。骨格筋的、身体的表現につながる。例)「身震いするような恐怖」。ピーク到達時間は早く、早く消失。子ども時代の早い時期に確立し、最小限の認知プロセスを動員。

【心理的・社会的】: 内受容感覚の領域の活性化。自己の構築・意識に関わる。例)「心の底から湧き上がるような温かさ」。ピーク到達時間はゆっくりだが、持続時間も長い。文化的要素やより実践的なプロセスの動員の必要性。より複雑な処理で獲得するまでにより時間を要する。

このことから、社会的感情は、まず、痛みとの関連の有無によって分けられる。そして、身体的なものにたいする感情は、心理的・社会的なものにたいする感情の土台となるため、子ども時代の早い時期に、身体的なものにたいする感情を経験する必要性を示唆している [Immordino-Yang, Riveros 2021]。

3. 結果

3-1 「自然や生命、崇高なものとの関わり」について

54項目から、「自然や生命、崇高なものとの関わり」についての9項目について、7件法で示された回答を集計した（表1）。

公立中学校、宗教系私立中学校ともに、質問3以外は、肯定的な回答が見られたが、「わからない」という回答が、最も多く見られた。

さらに、「わからない」という回答を見てみると、男女に大きな差はないが、学校別の差が見られた。9項目すべてについて、公立中学校の生徒の方が、「わからない」と回答する割合が多かった。

3-2 自由記述(1)について

表2. コーディングテキストによる分類

自由記述1 私立学校		自由記述1 公立学校	
*自然・動物・森林・海・生き物など・環境	66 52.38%	*自然・動物・森林・海・生き物など・環境	190 57.23%
*神・宗教・神社・マリア様・ローマ教皇・仏様	21 16.67%	*神・宗教・神社・アマテラス・仏様・寺・ゼウス	33 9.94%
*身近なもの・人・こと	21 16.67%	*身近なもの・人・こと	50 15.06%
#コード無し	27 21.43%	*イメージ(尊敬, 神秘的, 神様の, 崇高, 文化など)	15 4.52%
(文書数)	126	#コード無し	87 26.20%
		(文書数)	332

自由記述(1)についての回答をすべて入力し、KH Coderによって回答の中で使用されている語を抽出した。それらの抽出された語を多い順から一覧にすると、大きく3つの分類に整理された（表2）。多い順に、「自然・動物・森林・海・生き物など・環境」という「自然や生命」からイメージされる語、「神・宗教・神社など」の宗教的な語、さらに、公立中学校の生徒においては、「尊敬」、「神秘的」、「神様の」など、「崇高」を生徒自身の言葉として表現された語が抽出された。宗教系私立中学校において、「神・宗教・神社など」の宗教的な語の回答がやや多かった。

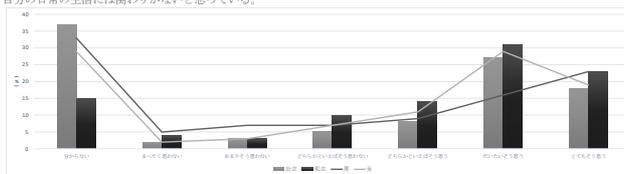
また、無回答の割合をみると、宗教系私立中学校においては、1年38%、2年31%、3年36%と、ほぼ変化がないが、公立中学校においては、1年55%、2年5%、3年6%と、2学年と3学年の生徒は、「自然や生命、崇高なもの」という言葉にたいして、何かしらのイメージをもっているという結果となった。

宇田川：道徳教育と宗教教育に関する質問紙調査と神経心理学による4つの分類法による検討

表1. 「自然や生命、崇高なもの」に関する質問項目について

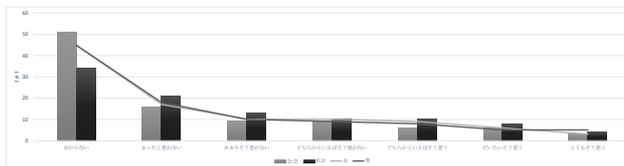
2. 自然や生命、崇高なものは非人格的（無機質な存在、人間ではない存在）であり、自分の日常生活には関わりがないと思っている。

質問2	分からない	まったく思わない	あまりそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	思いっきり思う	とても思う
男	33	5	7	7	9	16	23
女	29	2	3	7	11	29	19
公立	37	2	3	5	8	27	18
私立	15	4	3	10	14	31	23



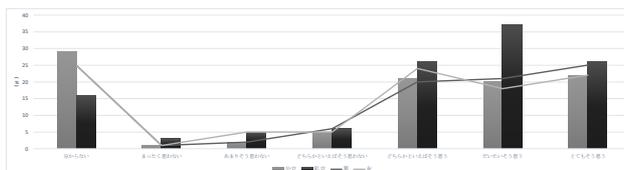
3. 自然や生命、崇高なものとのつながりは、個人的なものでは十分でないと思う。

質問3	分からない	まったく思わない	あまりそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	思いっきり思う	とても思う
男	45	18	10	9	8	5	5
女	45	17	10	10	9	6	3
公立	51	16	9	9	6	6	3
私立	34	21	13	10	10	8	4



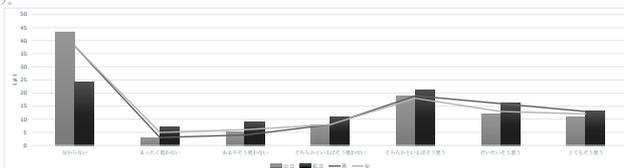
6. 自然や生命、崇高なものとの関係は、自分の幸福に大きな影響を与えようと思う。

質問6	分からない	まったく思わない	あまりそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	思いっきり思う	とても思う
男	25	1	2	6	20	21	25
女	25	1	5	5	24	18	22
公立	29	1	2	5	21	20	22
私立	16	3	5	6	26	37	26



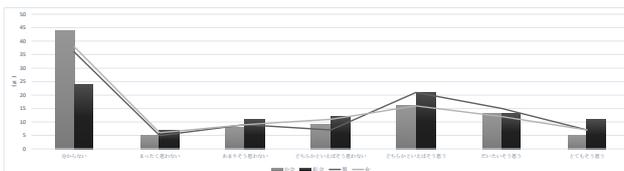
13. 自然や生命、崇高なものとの関係は、自分が孤独を感じないために有益であると思う。

質問13	分からない	まったく思わない	あまりそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	思いっきり思う	とても思う
男	38	3	4	8	19	16	13
女	38	5	6	8	18	13	12
公立	43	3	5	8	19	12	11
私立	24	7	9	11	21	16	13



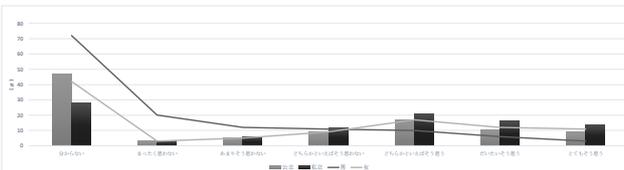
18. 自然や生命、崇高なものは、自分の困難を気にかけてくれていると思っている。

質問18	分からない	まったく思わない	あまりそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	思いっきり思う	とても思う
男	36	5	9	7	21	15	7
女	38	6	9	11	16	12	7
公立	44	5	8	9	16	13	5
私立	24	7	11	12	21	13	11



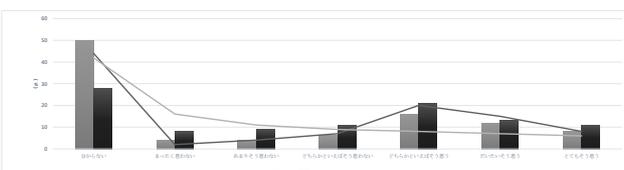
22. 自然や生命、崇高なものは個人的に有意義（意味のある）関係である。

質問22	分からない	まったく思わない	あまりそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	思いっきり思う	とても思う
男	72	20	12	11	10	6	3
女	42	3	5	9	17	12	11
公立	47	3	5	9	17	10	9
私立	28	3	6	12	21	16	14



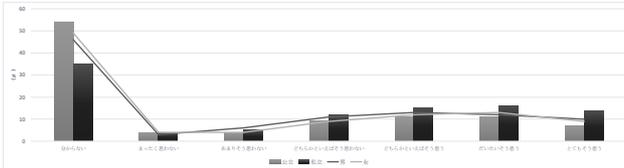
39. 自然や生命、崇高なものは、私を大切に思い、気にかけてくれていると思っている。

質問39	分からない	まったく思わない	あまりそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	思いっきり思う	とても思う
男	44	2	4	7	20	15	8
女	42	16	11	9	8	7	6
公立	50	4	4	6	16	12	8
私立	28	8	9	11	21	13	11



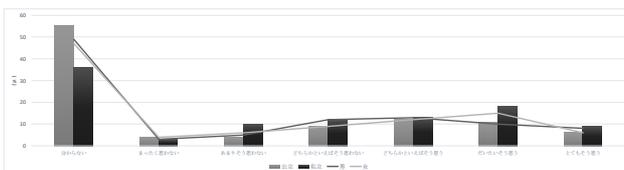
47. 自然や生命、崇高なものは個人的に満足出来る関係はない。

質問47	分からない	まったく思わない	あまりそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	思いっきり思う	とても思う
男	46	3	6	11	13	12	10
女	49	4	4	9	12	13	9
公立	54	4	4	9	11	11	7
私立	35	4	5	12	15	16	14



48. 自然や生命、崇高なものからは個人的な力ぞえやサポートを得ることはできない。

質問48	分からない	まったく思わない	あまりそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	思いっきり思う	とても思う
男	49	3	5	12	13	10	8
女	47	4	6	9	12	15	6
公立	55	4	4	9	12	11	6
私立	36	3	10	12	13	18	9



また、無回答の割合をみると、宗教系私立中学校においては、1年38%、2年31%、3年36%と、ほぼ変化がないが、公立中学校においては、1年55%、2年5%、3年6%と、2学年と3学年の生徒は、「自然や生命、崇高なもの」という言葉にたいして、何かしらのイメージをもっているという結果となった。

3-3 自由記述(2)について

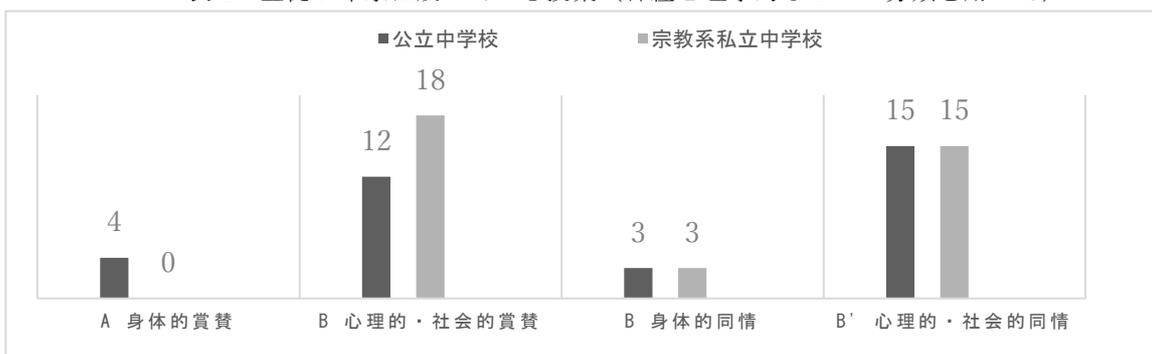
自由記述(1)と同じ手順で、KHコーダーに取り込み、多い順に抽出語リストを作成した。そして、コーディングテキストを用いて単元別、種類別、に分類し、さらに、神経心理学的な4つの分類（A 身体的な賞賛、B 心理的・社会的な賞賛、A' 身体的な同情、B' 心理的・社会的な同情）にそれぞれ分けて表記した（表3）。

表3. 自由記述(2)の回答結果と神経心理学的な4つの分類

私立中学校																					
分類	B, A', B'	B	B, B'	B, B'	B, B'	B, B'	B, B'	B	B	B, B'	A', B'	B	B, B'	B	B	A', B, B'	B, B'	B, B'	B, B'		
	イエス・キリストについて	祈り(口神様)	人(相手)の気持ち	人との関わり	聖書	愛に関すること	意味(生きる意味・祈りの意味)	アフリカで働く子どもたちの話	ソロモン	マリア様	感謝	クリスマスについて	ヤコブ	麦	小櫃をたたく金魚が出てきて願いをかなえてくれる	生きる意味について	最後の晩餐	マザーテレサ	校長先生のお話	出エジプト記のお話	
1	7 (18.9%)	16 (43.2%)	3 (8.1%)	2 (5.4%)	0 (0.0%)	3 (8.1%)	1 (2.7%)	1 (2.7%)	0 (0.0%)	2 (5.4%)	1 (2.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
2	10 (25.6%)	0 (0.0%)	7 (17.9%)	5 (12.8%)	2 (5.1%)	1 (2.5%)	1 (2.5%)	1 (2.5%)	1 (2.5%)	0 (0.0%)	1 (2.5%)	1 (2.5%)	2 (5.1%)	0 (0.0%)	1 (2.5%)	1 (2.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.5%)	
3	10 (23.8%)	0 (0.0%)	1 (2.3%)	1 (2.3%)	3 (7.1%)	1 (2.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	
合計	27 (22.8%)	16 (13.5%)	11 (9.3%)	8 (6.7%)	5 (4.2%)	5 (4.2%)	2 (1.6%)	2 (1.6%)	2 (1.7%)	2 (1.7%)	2 (1.7%)	2 (1.7%)	2 (1.7%)	1 (0.85%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	
公立中学校																					
分類	B, B'	B'	B, B'	A', B'	A, B	B'	A, B	A, B	B'	A', B'	B'	B'	B	B, B'	B, B'	A, B	B'	B	B	B'	
	人(相手、友達)とのかわり	宗教に関すること	自分自身について	いじめやいじめられない心	へこたれ心	戦争について	短所を武器とせよ	どうせ無理をなくしたい	思いやりをかたちに	貴戸(友人)を大切に	環境問題、SDGs	たすきとボンボン	オバマ大統領のスピーチ	命のビザ	お礼の大切さ	イチロー選手	歩きスマホはどうか	掃除の優しさ	裏庭の出来事	差別	
1	18 (17.8%)	3 (2.9%)	8 (7.9%)	10 (9.9%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (3.9%)	1 (1.0%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	2 (1.9%)
2	12 (10.7%)	9 (8.0%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	14 (12.5%)	0 (0.0%)	9 (8.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (2.6%)	4 (3.5%)	2 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
3	19 (16.6%)	7 (6.1%)	6 (5.2%)	4 (3.5%)	1 (0.9%)	11 (9.6%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	4 (3.5%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	2 (1.7%)	3 (2.6%)	2 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.7%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	
合計	49 (15.0%)	19 (5.8%)	16 (4.9%)	16 (4.9%)	16 (4.9%)	11 (3.3%)	9 (2.7%)	5 (1.5%)	5 (1.5%)	5 (1.5%)	4 (1.2%)	4 (1.2%)	3 (0.9%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	

A: スキルへの賞賛 B: 心理的・社会的な美德への賞賛 A': 身体的痛みへの同情 B': 心理的・社会的な痛みへの同情

表4. 生徒が印象に残っている授業（神経心理学的な4つの分類を用いて）



さらに、単元別などに分類した、生徒が印象に残っている授業内容を、Immordino-Yang et al., [2009]の神経心理学的な4つの分類に分け、4分類別の合計を学校別に出しグラフで表した(表4)。

A 身体的賞賛については、私立中学校では0であったが、B 心理的・社会的については、私立中学校の方が多くなった。B 身体的同情と、B' 心理的・社会的同情については同数であった。

4. 考察

質問紙調査の結果から、公立中学校の方が「自然や生命、崇高なものに関する否定的な意識」得点が高く、「自然や生命、崇高なもの」についての質問項目にたいして、「わからない」と回答する生徒が多かった。そのため、「自然や生命、崇高なもの」という用語は、宗教教育を受ける私立中学校の生徒の方が、イメージが湧きやすいのではないかと考えた。

しかし、再調査においては、「自然や生命、崇高なもの」と聞いて何をイメージしましたか」という質問にたいして、私立中学校の生徒は、「神」、「マリア様」などの宗教的な語を回答する生徒が公立中学校の生徒に比べ多いが、公立中学校の生徒は、「崇高」という語を、「尊敬」、「神秘的」、「神様の」などと、自分自身の言葉で表現をした回答がみられ、また、公立中学校の2、3学年の生徒は、無回答の生徒の割合が少なく、1年生の学習により、「自然や生命、崇高なもの」にたいするイメージを持つことができるようになったと考えることができるかもしれない。

このことから、公立中学校の生徒は、「自然や生命、崇高なもの」についてのイメージはあるが、質問内容にそれらのイメージをあてはめると、「わからない」という回答になる可能性があるのではないかと推測される。

また、「道徳や宗教の授業の中で印象に残っていることは何ですか」という質問については、公立中学校、私立中学校ともに、バランスの良い授業内容が行われていた。バランスが良いとは、身体に関する社会的感情は、基本的な感情に関わり、心理的・社会的な感情の土台になるが、心理的・社会的な感情の方が、より複雑な処理や、幅広い知識が必要になるため、授業の時間数としては、身体的なものより、心理的・社会的なものを多く行う必要があるが、両校ともそのような結果となった。

5. 今後の展望と課題

「自然や生命、崇高なもの」という超越的で、抽象的な授業内容において、畏敬の念、至

福、賞賛、他人の痛みや苦しみへの共感、といった高次の社会的感情を、生徒に感じさせ、なおかつ、他人の心理的・社会的な状況を理解するための知識を身につけるような授業を行うことは容易ではないと思われる。

一方で、高次の社会的感情の経験という入力を通して、青年期に可能となる脳の発達が促されるならば、この分野の研究はこれからも重要だと考える。

本研究は、公立学校1校、私立中学校（カトリック系私立学校）1校のみの調査であったため、一般的な傾向を示すものとは言えず、より多くの中学校での調査や、青年期にあたる、高校生や大学生への調査をする必要があると思われる。

しかし、中学校期の生徒への質問紙調査から、宗教教育と道德教育の比較をし、神経心理学的な分類を行ったことは、今後の宗教教育、道德教育の授業内容を検討するうえで有意義な視点を提供することができたと考える。今後も調査を継続し、さらに分析を深めていきたいと思う。

謝辞

質問紙調査にご協力いただきました学校関係者のみなさまに感謝申し上げます。

註

本調査は、國學院大學ヒト研究等及びヒト由来試料研究等に関する倫理委員会の承認を得ている。

(1) 大学生の宗教意識についての実証的な研究として、1995年から2015年まで12回にわたり実施された、井上[2017]、[2018]がある。全国数千人規模の大学生への調査であり、宗教教育の国際比較も行われている。また、大学生の倫理・道德に関わる意識調査として横田[2017]や、小学生の宗教心・宗教意識の調査として、キリスト教主義の私立学校と公立小学校5・6年生を対象にした太田[2006]がある。

(2) 中学校学習指導要領第3章第2内容において、道德教育の内容を、4領域22項目に設定している[文部科学省 2017: 154-156]。4領域とは、「主として自分自身に関すること」、「主として人との関わりに関すること」、「主として集団や社会との関わりに関すること」、「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」である。また、「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の下位項目として、4項目（「生命の尊さ」、「自然愛護」、「感動、畏敬の念」、「よりよく生きる喜び」）を定めている。

(3) 大門[2018]の質問項目では、「主として自然や神、崇高なもの」という表現が使用されていたが、公立学校への調査協力の要請の際に、「神」という表現を使用することができないという回答があったため、学習指導要領道德科の内容領域の1つである、「主として自然や生命、崇高なもの」という表現に変更した。

(4) 大門 [2018] では、「わからない」を除く6件法での回答であった。7件法にすることにより、無回答の数を減らすことにつながったが、しかし、「わからない」という回答は、「どちらでもない」、「質問の意味がわからない」などの解釈ができるものとなり、今後の課題となった。

(5) 項目の内容は以下のものである。1 自分の未来について前向きな印象を持っている。2 主として自然や生命、崇高なものは、非人格的な存在（無機質な存在、人間的ではない存在）であり、自分の日常生活には関わりがないと思っている。3 主として自然や生命、崇高なものとのつながりは、個人的なものでは十分ではないと思う。4 相手の立場を考えずに、悪口を言ってしまうことがある。5 生きるということは、有意義な（意味のある）経験であると思う。6 主として自然や生命、崇高なものとの関係は、自分の幸福感に大きな影響を与えらると思う。7 クラスみんなで話し合って決めたルールは絶対に守る。8 欲しいものがある時には、すぐを買ってしまう。9 電車の中で、知らない人が話していた内容が面白かったら友達に話す。10 友達から聞いた噂話を、そのまま別の友達に話すことがある。11 先生の話の内容に疑問がある時には、本などで確認するようにしている。12 商品を買ったら、取扱説明書を読んでから使うようにしている。13 主として自然や生命、崇高なものとの関係は、自分が孤独を感じないために有益であると思う。14 友達が法律に違反するようなことをしようとしていたら注意する。15 みんなが一人の人をいじめていたら注意する。16 生きるということには、真の目的があると思っている。17 生きることに充足感と満足感を感じている。18 主として自然や生命、崇高なものは、自分の困難を気にかけてくれていると思っている。19 秘密でなくても、他人の家の話など個人的なことはあまり言わないようにしている。20 自分が怒っている時には相手の気持ちなど考えずに、傷つけることを言ってしまうことがある。21 人生における葛藤と不幸を感じている。22 主として自然や生命、崇高なものとの個人的に有意義な（意味のある）関係である。23 テレビを見ていて疑問がある時には、新聞や本などで確認するようにしている。24 年上の人とも友達と話すのと同じ言葉づかいで話している。25 生きることを楽しむことはあまりない。26 絶対にバレないと思ったら、悪いことをしてしまう。27 テレビでやっている内容はそのまま信じる。28 学校に持って行ってはいけないものは、持って行かない。29 人に物をあげるときには、相手が本当に欲しいかどうかをよく考えてからあげる。30 友達に誘われても悪いことは絶対にしない。31 人に何かを頼むときには、丁寧に説明している。32 みんなで一緒にやろうと誘われても、やってはいけないことはやらない。33 友達と一緒に行動するときには、悪いと思うことでもついやってしまう。34 法律に違反するようなことは絶対にしない。35 どうしてもやらなければならないことがある時には、誘われても遊びに行くのを我慢する。36 欲しいものがあるときには、計画的に貯金をしてから買うようにしている。37 人が傷つくことをつい言ってしまうことがある。38 先生から注意されたことは、きちんと守る。39 主として自然や生命、崇高なものとの強いつながりを持っている時、最も充足していると思う。40 主として自然や生命、崇高なものは、私を大切に思い、気にかけてくれていると思っている。41

友達から聞いた噂話を、そのまま信じ込まない。 42 友達と遊びに出かけたくても、試験前は遊びに行くのを我慢する。 43 質問に答えてもらった時には、お礼を言っている。 44 欲しい物があってもすぐに必要でなければ買うのを我慢する。 45 自分の人生の進む方向に幸福を感じている。 46 欲しいものが、落ちていたら自分のものにする。 47 主として自然や生命、崇高なものと個人的に満足出来る関係はない。 48 主として自然や生命、崇高なものからは個人的な力ぞえやサポートを得ることはできない。 49 買い物のおときには、間違いがないかどうかレシートの内容を確認するようにしている。 50 自分自身が誰であるか、どこから来て、どこへ行くのかには関心がない。 51 人に何かを説明するときには、相手に分かりやすいかどうかを考えながら説明する。 52 人に迷惑をかけてもきちんと謝れない。 53 生きることには、あまり意味がないと思う。 54 将来について不安を感じている。

(6) 調査対象校で用いられている教材について。

公立学校：中学道徳 1(<https://www.kyoikushuppan.co.jp/mljh/dotoku/1.html>,2022.9.13)、

中学道徳 2(<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/ml-jh/dotoku/2.html>,2022.9.13)、

中学道徳 3(<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/ml-jh/dotoku/3.html>,2022.9.13)。私立学校については以下を参照した(対象校の担当教員からの資料をもとに、筆者作成)。

宗教Ⅰ	宗教Ⅱ	宗教Ⅲ
学習の目標：キリスト教の基本的な知識を得て、自分と自分の生活をみつめる。「イエス・キリスト」を知り、「神と共に生きる」という生き方に目ざめ、愛の行いを実践する。	学習の目標：カトリックの教えを聞き、旧約聖書を学び、自分と自分をとりまく世界との関連で理解する。新約聖書を声に出して読み、黙想を深める。	学習目標：中2に引き続きカトリックの教えを聞き、聖書全体を読み、神のみことばをより身近に生きたものとしてとらえる。新約聖書を声を出して読み、黙想を深める。中1から続けてきた「愛の行い」を更に発展させ、他者との交わりを味わう。聖書に関する知識を得て、学びを広げる。
学習内容	学習内容	学習内容
聖書、神 神と人間 心を耕す、土を耕す 主の祈り、愛 誘惑、回心 新しい人として、死といのち クリスマス たいせつなきみ タラント 最後の晩餐、ゲッセマネの祈り 受難・十字架、イエスを葬る 福音書を読む、復活	聖書 創造 最初の人間 アブラハムの信仰 モーセ 神の民 神の契約 ダビデ 救い主の預言 洗礼者ヨハネ 救い主の母 救い主の誕生	公現 イエス 聖家族 神の国での権能 地上での権能 神のおん子 天のおん父とイエス 聖書の中の知識 聖書を読む背景としての知識 ステンドグラス制作 人間の尊厳「いのちと愛」

(7) Damasio [2003] は、外受容感覚を、視覚、聴覚、嗅覚、触覚とし、内受容感覚は、身体の内部環境に関する(痛み・体温を含む内部環境、内臓など)感覚としている。

参考文献

Damasio, A. 2003 “Feelings of Emotions and the Self.” *Ann N Y Acad Sci* (101):253-261.

Ellison, C.W. 1983 “Spiritual well-being conceptualization and measurement”, *Journal of*

Psychology and Theology (11):330-340.

Immordino-Yang, M.H., Damasio, H., Damasio, A., McColl, A. 2009 "Neural Correlates of Admiration and Compassion" *Proceedings of the National Academy of Sciences* (19): 8021-26.

Immordino-Yang, M.H., Sylvan, L. 2010 "Admiration for virtue: Neuroscientific perspectives on a motivating emotion", *Contemporary Educational Psychology* (35):110-115.

Immordino-Yang, M.H., Riveros, R. 2021 "Toward a Neuropsychology of Spiritual Development in Adolescence" *Adolescent Research Review* (6):323-332.

アントニオ・ダマシオ 2019 『進化の意外な順序－感情、意識、創造性と文化の起源』 高橋洋訳、白揚社。

井上順孝編 2005 『現代宗教事典』 弘文堂。

井上順孝 2017 『学生宗教意識調査総合報告書（1995年度～2015年度）』 國學院大學日本文化研究所。

井上順孝 2018 『学生宗教意識調査総合分析（1995年度～2015年度）』 國學院大學日本文化研究所。

大門耕平 2018 「宗教教育が内包する学生への道徳教育的効果を評価するための尺度の開発」『基督教研究』 80(2):49-68.

大門耕平・宇田川千帆 2022 「中学校期における道徳性の発達を測定する尺度の開発」『宗教と社会』 (28):17-31.

太田雅子 2006 「子どもの宗教心に関する調査」『北陸学院短期大学紀要』 (38):17-29.

玉田和恵 2004 「道徳的規範知識・情報技術の知識・合理的判断の知識による情報モラル指導法の開発と評価」東京工業大学、博士論文、甲第 5948 号、2004 年 12 月。

樋口耕一・中村康則・周景龍 2022 『動かして学ぶ！はじめてのテキストマイニング フリー・ソフトウェアを用いた自由記述の計量テキスト分析』 ナカニシヤ出版。

文部科学省 2017 『中学校学習指導要領（平成 29 年公示）』 文部科学省。

横田理博 2017 「学生の倫理意識－アンケートの集計結果」『電気通信大学紀要』 29(1):90-101.